

令和7年度第3回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和8年1月8日（木）15：30～17：00

会 場：市役所15階 中会議室

次 第：

- 1 ながさきピース文化祭2025の報告について
- 2 ベネックス長崎ブリックホール先行予約制度について

次第1 ながさきピース文化祭2025の報告について

＜ながさきピース文化祭2025の報告について資料1により事務局から説明＞

【会長】

去年私たちが苦労して作った長崎市芸術文化振興プランの裏面に、この審議会の役割が明確に示されている。市から説明報告があったものに対して、我々はそれを評価したり、検証したりするというのは大事な我々の仕事である。

【委員】

県のアンケートの集計結果がこれから出てくると思うので、それを踏まえた上でないと実際の評価はできないと思っている。私たちの団体も市の地域文化発信事業として実施して、非常に好評いただいた。これをどう今後に継続させていくかということが大事だと思うので、その観点からの評価を後日させていただきたいと思う。

【委員】

37の事業という多岐にわたることが取り組めたのは、文化祭のたまものかなと思った。日本舞踊公演で実は若い頃から20年携わっていて、こういった舞台はこのピース文化祭でこそできたことであって、感謝している。

【委員】

期間中はいろいろと毎週のように観に行き、自分も参加して楽しく過ごしたが、プッチーニフェスティバルと音フェスは運営に携わって、子どもたちがきらきら輝く笑顔を見ていて、とてもいい時間になったと思う。今後にもつなげていけたらいいなと思う。期間中はインスタグラムで情報を見ていた。これもぜひ文化振興課で続けていけたらいいと思った。

【委員】

これからアンケートの検証を行われるということで、やはりそれが分析に必要かなと思う。それで文化祭が終わって、これから文化の定着とか持続とか、発展が必要だと思う。

【委員】

演劇協会としてはミュージカルを作った。ミュージカル作るのは問題ないが、その収支予算書を作っていくのがすごく大変、分からぬところばかりで、常にピース文化祭推進室の方と連絡を取りながらやってきたつもりだが、終わってみると、質問が多く、ピース文化祭推進室の指導を受けてやってきたつもりでいたが、どうなのかなと思うところがちょっとあった。同時にイベントがあったので、同じ日にチケット売ろうと思うと、他のところを見に行くからごめんなさいというのが多かったので、ちょっといっぱい詰め過ぎたところもあるの

かなと思った。でもこれだけ盛り上がったのでこの後も火を消さないように続けていければいいなと思う。

【会長】

今回のこの立て付けというのは文化庁、国、県、市町がいてそして実行委員会ということで、何段階もチェックが入ってそれぞれの見解が入るために、どうしても複雑になっている。それをまとめる市や県の方も苦労されたと思うが、現場は大変っていうのはとってもよくわかる。

【事務局】

大変ご迷惑おかけしてるというのは承知しており、せっかく大きなイベントで、とても楽しかったとか充実感を覚えていただいているところにおいて、さらにお金の話までもしないといけないというところに関しては、非常に申し訳ない気持ちでいるので、なるべく早く終わらせるように、こちらも頑張りたいと思う。

【委員】

佐世保でメサイア公演があり、活水の学生が出演させていただいた。普通だととても共演できないような方とご一緒する機会を持たせていただき本当に感謝申し上げる。合唱と邦楽のフェスティバルを見に行ったが、合唱は、浦上天主堂で何日間にもわたって、とても熱量の高い催しだった。ピース文化祭のピースっていうテーマに沿った内容で、どの団体も準備されてきていて、浦上天主堂という長崎の象徴的な場所で聴かせていただいてとてもよかったです。邦楽も全国、長崎県内でもこんなに邦楽の小学生から大人の方まで盛んにされているのを、ずっと長崎市に住んでいても、存じなかったが、今回こういうことをきっかけに親しみができ、広がってよかったです。

【委員】

まちなか文化祭で折り鶴アートを実施した。市民の人から鶴を折ってもらったのを募集して、大きなパネルの中に鶴を1個1個入れながら、ハトが真ん中になって周りがグラデーションになるようなものを1つ作り上げて、最後の仕上がりのところを浜町のまちなか文化祭で通りすがりの人に一部を見てもらって、差し込んでいってもらった。そうやって市民の皆さんがあつまつて、一緒に作り上げた1つの作品を、ブリックホールに展示してあるので、よかったです。

【委員】

3年かけて計画をして、他の地域の団体と一緒にすることができる、そこから交流が始まってというような状態になっていて、すごいことをしたんだと自分たちがものすごく満足した。

【委員】

全国邦楽フェスティバル in 長崎を全国組織の人たちと一緒にやった。邦楽でブリックホテルを使用したことがなかったが、ほぼ満員の状況で、全国から集まったプロの人たちあるいは北海道からの団体なども入れて、長崎に関する曲なんかも披露がてきて大変よかったです。来場者速報値 800 人だが、もっと入っていた。

【委員】

オペラ蝶々夫人の全幕公演に行くことができた。あれだけの迫力ある素晴らしいステージで私にとってあまり触れることができないものに触れることができた。こういう事業が開催される意義は非常に思うので、引き続き文化が続けられるような地域であるとか、まちづくりっていうところが大切なかなというふうに感じている。

【委員】

私は普段市内でお世話になっている団体が、今回のピース文化祭で大村でピースピース工場というイベントをされるということで、普段は親子で参加させていただくことが多いので、長崎市内のイベントばかりに参加しがちだったが、思い切って大村まで足を伸ばすよい機会となった。また、行く前まではちょっと大村まで大変だなという気持ちもあったが、参加してみると長崎市以外でも活動されている方々のことを知るよい機会になったり、また一部の方と繋がったりもできて、とてもよかったです。これからは市外のアーティストの方が今度は長崎市の方に来て、何かイベントをするような形で繋がるといいなと感じた。

【委員】

期間中はピースの旗があちこちではためいて、町全体がその雰囲気の中、各所でやられているということがとてもよかったです。皆さんのが活躍する場があったことがとてもよかったです。直接関わる主催の事業というのはなかったが、関連事業として、被爆 80 年の特別企画としてミュージカルの公演を呼んで市民にたくさん見ていただく機会を作ったり、ベイビーシアター公演を県内 8ヶ所で実施した。諫早の人形劇フェスティバルでは、プロもアマもあちこちから劇団が集まって、子供たちに人形劇をたくさん見せていただくことができてよかったです。閉会式に参加させていただき、お名前は載っていないが長崎の福田修志さんが演出にも関わっていたりして、労をねぎらったところ。全国的な方たちと一緒に長崎の皆さんのが何か取り組みをできたっていうこともとても貴重な機会だったんじゃないかなと思う。閉会式は J1 昇格した翌日で、文化でもうちょっと発信が負けないぐらいできたらいいなというのがあるが、長崎のそういう勢いに乗っていけたらいいんじゃないかなと思う。

【委員】

様々な文化に触れることで、自分もこれやってみよう、ちょっと始めてみようかみたいな話をいくつか周りの人に聞けたので、非常にいいきっかけになったと思う。特に大きな事故やけがとかそういったことがなかったと承知している。

【委員】

日本舞踊の団体は、まず9月にダンス＆ダンスに出演した。そのあと11月23日、ブリックホールで日舞の公演を実施した。そして2年ほど前から、市内の先生方を中心に実行委員会を立ち上げて、どうしたら皆様に日本舞踊に親しんでいただけるような、楽しんでいただけるような、そういう舞台をみんなで作り上げていきたいということで、ずっと話し合いを続けてきた。そして、日本舞踊はどうしても古典のものが主流だが、今回は本当に見たこともない人たちにも理解していただきたい、見ていただきたいという思いから、6演目選んで、結果的には、それぞれ見ごたえがあったし、とても楽しかった面白かったというご意見をたくさんいただきて、会場の方も本当に1階はびっしり入って見ていただきて、大変意義のある舞台だったと思う。県内から先生方が協力して集まって、とても良い会ができたと思う。今後も、こういうものができるといいなと思う。

【委員】

舞踊協会としては出ていないが、かとうバレエで、開会式・閉会式、それとダンス＆ダンスと参加させていただいた。他の団体との共演や、郷土芸能の方とも一緒にさせていただいて、出演者も若い人から年配の方までいて、皆さんすごく楽しんで、本当に思い出に残るいい機会だと言っていた。テレビ放映もされたので、やっぱり開会式を見てよかったですやっぱり閉会式も行きたいということで、改めて閉会式に参加をしたりとか、そういう方もいらっしゃったので、本当に皆さん文化に携わることができてよかったです。

【委員】

開閉会式どちらもすごく見応えがあるものを見せていただいた。美術館で障害者芸術祭の障害者アートが開会式前の9月11日からスタートした。そして開会式前日に、天皇皇后両陛下にご来館いただきて、見ていただく機会があった。障害者芸術を天皇皇后両陛下に見ていただいたことに象徴されるように、この障害者芸術祭と一体となって文化祭だというところがそこで示されたような気がしてとてもよかったです、この後も長崎市の障害者アート展やその他いろいろ障害者のアートを紹介する機会というのが多かったので、それもすごく、このピース文化祭の大きな成果だと思う。

【会長】

意外に思ったのは、2ヶ月半続いていて、後半は疲れてお客様が来ないんじゃないかと思ったが、意外と集まった。だから長崎の文化を欲する気持ちって意外と捨てたもんじゃない

など。場面さえあれば、皆さんのが集まって来る可能性を秘めている。長崎は集客が難しいといつも言うが、それは我々の勝手な思い込みで、実はそうではなかったことを示す1つの機会だったというふうに前向きにとらえている。

【事務局】

早く帰ってメンバーにも伝えたいと思う嬉しいご意見をいただいた。

次第2 ベネックス長崎ブリックホール先行予約制度について

<ベネックス長崎ブリックホール先行予約制度について資料2により事務局説明>

【会長】

この前も少し説明いただいたが、もうちょっと細かなデータを示してほしいとの意見があつたので、九州管内の情報、実際にブリックホール大ホールがどうなつていて今後どうなるか、表に落とし込み説明いただいた。

【委員】

言っても仕方ないが、こういうふうになるだろうと公会堂が廃止されるときに私は訴えていた。案の定やはりこうなつた。新たな文化施設を建てる会議の席数のときにも私とKTNの方が言った。実際ある委員は福岡に見に行けばいいんじやないかみたいなことを言われたのも記憶しているが、結局やはりこうなつてくる。今回に関してはもう仕方ないと思うが、今後新たな文化施設ができたとしても1,000席だとやはりブリックホールに興行は集中していくことになるので、それも踏まえて考えたときに、大丈夫かとの懸念が非常にある。やはり先を考えいろいろ計画し、その場その場のことで考えるべきではないという1例だと思うので、今後、新たな文化施設もこの間の議会で一応今年中にいつ建てるかを示すとの話で、大分回り回ってやっとそこまで来たかという感じだが、結局日にちがたてばたつほど、費用が高騰している状況なので、一刻も早く建てるのが最善なので、その辺のところも踏まえて、今後の文化施設も考えていかないといけないと思う。

【会長】

おっしゃる通り。この審議会でも先のことを結構考えてプランを作った。ただ、その通り進まなかつた。

【委員】

ブリックホールの抽選には毎年行くが、大体最初に予約をしようと思って見たときから、月に4回ある土日が2回しか取っていない、2回取れれば良い方で確か1回しか取れないときがある。その土日1回をいくつどのような団体で奪い合うのかいつもびくびくしながら抽選に行くが、絶対そこで落ちると、また次となつてくるので、できない人がたくさん出てくる。ただ今回、4月から使用料が上がるで多分ブリックホールではできない団体もたくさん出てくると思う。私の団体も厳しいと言つてはいる。抽選に現れないこと或多分出てくると思うので、ちょっと状況は変わつたと思うが、大体集中する月は決まっていて、10月11月が多い。2回しかない中に1回興行が入られるとその1回ですごい数で奪い合うとちょっときつい、苦しい気はする。だから、集まりそうな月を避けてもらうのはできないか。ちょっと配慮していただけると、市民も使いやすくなると思う。全体の団体でどれぐらいいるのか

わからないが、そう思った。

【会長】

確かに同じところに集中する。それは市民団体もだが、逆に減っている興行も客が集まりやすいところがあるだろう。集中するのは避けられない。これを避けるために新しいホールを作るしかないと思う。おっしゃる通りだが、今、話があった、ちょっと料金が上がったために、今後活動が少し難しくなるような団体があるのは1つの大きな問題と思うので、別途このことについて少し検討する必要がある。せっかく今までされてきたことが、料金が上がったためだけでできることは、料金を安くしてというのではなく、何か方法がないのか検討したほうが良い。

【委員】

先行予約制度はブリックホールだけに限るのか。市民会館や新たな文化施設もこういう制度を最初から作っておいても良いと思うがいかがか。

【事務局】

まずはブリックホールの制度をちょっと見直したいと考えている。市民会館については、先程説明があったプロモーターいわゆるイベント主催者から、こういう制度の要望が今のところない状況。あくまでもブリックホールへの要望なので、まずはそこでしたいと思っている。今回市民会館は考えていない。新たな文化施設については、市民会館の運用状況を把握した上でしっかり検討していきたいと思っている。

【委員】

ブリックホールを予約したことはないのでわからないが、ブリックホール自体の自主事業はいつぐらいに入れるか。24か月前には自主事業を先に入れることができるのか。そこも大事な点と思った。

【事務局】

実際のところ稼働率が高く、自主事業が思うほどできていない現状がある。そういった中でも、指定管理者が4月から変わったが、5年間の指定期間の中でできる自主事業を組み立てられていて、今年度も既に2回しているが、今は指定管理期間内でこういう自主事業をしたいと市に教えてもらい設定している。前の指定管理者の間は、稼働率が高すぎるというのもあり、ギャラリーを使った「レンガのある風景」しか自主事業ができていなかった状況なので、新たな文化施設を作ったときに、例えばブリックホールは2,000席で興行ができ、新たな文化施設は1,000席で特に市民の発表の場に使われるときに、自主事業はどちらでどういうものをするかと一緒に検討していきたいと考えている。自主事業がいつから予約できるという話の前にできていなかった現状がある。いつから予約できるかについては、特に定め

がない状態だったので、自主事業の申請があった時点で5年間の指定管理の期間内であれば、例えば4年前の土日も押さえられる。

【委員】

ブリックホールの指定管理者が24か月より前から自主事業で押さえる場合、それにプラスして興行を優先し、次に市民優先。

【事務局】

そうなる。ただ、今の指定管理者も現状はよくわかっているので、自分たちの自主事業ばかりで埋めようとは考えていない。

【委員】

美術館を考えると、自分たちがする事業で多少優先的に使わないといけないときは早めに予約しているので、自主事業をどれぐらいできるかはブリックホールがより盛り上がるためには大事と思った。

【事務局】

説明したとおり何か月前から自主事業を入れられるというルールがないので、指定管理期間内であれば、4年以上前に入れることはできる。ただ、あくまでも自主事業を予約するには、市が承認しなくてはいけないので、主催者である指定管理者が企画を上げてきて、それを市でしっかり吟味をし、興行枠と同じように、4年前でもするべきと判断したものについては承認するが、自主事業が上がってきたからどんどん承認し、それによって興行枠や市民優先の枠が減ることがないように、我々もしっかりコントロールしたいと考えている。

【委員】

指定管理者の裁量に任せるとではなく市できちんとバランスを取るのであれば大丈夫とは思うが、本当だったらルールを作ったほうがいい気はする。

【会長】

自主事業は指定管理者しかしないか。長崎市は自主事業しないか。

【事務局】

する。

【会長】

市が実施する自主事業はいつから押さえることは可能か。

【事務局】

それも同じように取り決めはないので、長崎市がやる自主事業は数年前であっても予約できる。

【会長】

自主事業という言葉が曖昧で、我々は長崎市がするのを自主事業と思っているが、指定管理者が独自に企画されて市が了解したものが自主事業と聞こえたので、主体はどちらかというと長崎市で指定管理者に丸投げするものではないか。

【事務局】

そうではない。どちらも考える。

【会長】

どちらがイニシアチブを取るかはやはり長崎市に頑張ってもらいたいと思う。

【委員】

指定管理制度で自主事業は指定管理者ができるようになっているので指定管理者主体になると思ったが、それとは別に長崎市が主体的に主催する事業もあると思うし、指定管理者がNIB 関連だから NIB の興行と同じと考えることは、指定管理者の立場で考える自主事業は違うと思う。そこはどう整理するか。

【事務局】

おっしゃったとおり。まず長崎市が主催をする長崎市の主催事業がある。それから指定管理者が独自で企画してくる主催事業、これを自主事業と呼んでいるが、この両方がある。興行との住み分けについても、今言われたとおり。指定管理者が主催をして企画を上げてきたものについて、当然市は中身を吟味して承認はするが、その内容まで市がイニシアチブを取るかというと、そこは指定管理者に任せたうえで承認したいと考えている。

【委員】

納得はしていない。今までさえも本当に会場が取れなくて困っている状況なのが、さらに 2 枠も最初から取れないのが毎月出てくるのは、やはりきつい。だから納得はできないが致し方ない。例えば 2 枠を 1 枠にするとか、さっき話があったように特に秋の文化的な行事が多く集中する時期は除外するとか、その辺もちょっと考慮してもらえないかと思う。

【会長】

難しそうな気はする。そもそも文化ホールのミッションとしては、市民文化団体の発表機能、市民が優良な舞台等を鑑賞する機能、創造という 3 つの柱。今ブリックホールで創造

の機能が薄いと思うが、鑑賞は市民団体の発表と少し分けて考えないといけないと思うので、発表する権利と鑑賞する権利は今回の整理は同じような扱いで24か月と示されている。それから委員がおっしゃるように偏り密集する人気が高いところは市民優先にとの気持ちはよくわかるが、プロモーターサイドのそこを外すと赤字が出るということもあり、折り合いをつけなければならない気もする。やはり長崎に良い舞台が来ていないことは不満として出ているのも現実に聞こえてくると思う。もちろん市民団体も優秀なものをしているが、また違った種類のもの。いろいろなものを市民は求めているので、今回はこういうふうにまとめて26か月前で、まずはブリックホールに走ってもらい、我々は新たな文化施設に全力をというのが1つの考え方という気がしている。

【委員】

資料を見ていて危機感を持つのは、長崎が減っているが、むしろ福岡がこれだけ増えていること。これだけ大都市集中になっていて美術館も同じだが中央の大きな都市で大きな展覧会をしてそこに人を入れ、地方と中央との格差が進むという数字ではないかと思うので、鑑賞の機会という意味では、やはりきちんと増やす対策を取ったほうが良いと改めて思う。それは福岡にばかり集中していくのはやはり避けたほうが良いと思うから。委員の辛い気持ちは、隣にいるとひしひしと伝わってくるし、これまでの発言はごもっともなところばかりだと思うが、鑑賞と創作のバランスはどちらがというのは、美術館はどちらかというと鑑賞をしたいところでもあり、そういった内容を作っているので来てほしい一方で、地域の力をちゃんと示すために、ブリックホールは、市民は優先的に使えるべきだと思うが、同時に長崎県にとどまらない鑑賞の機会を大きく創出しないと、ますます福岡一本やりみたいなことになるというのは強く持つので、とりあえずこの提案のまましてみたら良いと思う。

【委員】

2024年までの資料だが、そこに加味されていない部分が1つあり、ハピネスアリーナができている。そこでできる形態のライブもあると思うので、民間で費用が大分かかるというのはあるだろうが、大きなイベントやライブであれば、ちょっとお金がかかってもそちらを借りてもらい、やはりブリックホールは高くなつたとはいえ市の施設なのでまだ借りやすいので、その辺も視点として入れてもらえばと思う。

【会長】

そういう視点も含めながら、今後どうやって長崎市にある数少ない文化施設の機能分担、限られたものを皆で使うかも含め、とりあえず皆さん納得とは別に了承してもらい、次に進めてもらうことにして良いか。<異議なし>鑑賞機会が少し増えるということだと、この前私たちが作った芸術文化振興プランで成果指標があった。芸術文化を鑑賞する市民の割合を51%から55%にする。この4%がもしかしたら上がっていくかもしれない。良い意味でそこに近づけるかもしれない。ただ、文化活動を行う市民の割合がもともと低いが18%を

20%にするという部分は依然として解決できていない。その1つの理由が、やはり練習場がなかなか確保できていないということで、今どのような検討状況かをわかる範囲で少しお話してもらい、皆さんと知恵を出し合えればと思う。

【事務局】

ご指摘のとおりコロナ禍で民間が運営していた音楽、演劇等の練習室が相次いで閉鎖をしている状況もあり、コロナ禍が終わっても復活ができていないことも相まって練習場不足が続いている状況は我々も深刻に受けとめている。当初は新たな文化施設を作り、その中に練習室を整備し解決するとの話をしていたが、その新たな文化施設の整備が後ろ倒しになり現在の状況になっている。以前も説明したが、新たな文化施設の整備ができれば、ブリックホール国際会議場を改修し音楽ホールにするとか、会議室の設えを変え練習室に使うとの話もあったが、費用が非常にかかるとか、工事をすると大ホールそのものを止めなくてはいけない影響があり、なかなか今現実的に工事に着手するのが難しい状況。我々もそのような中で何もしていないわけではなく、民間の施設に使えるところがないかも検討しているが、その中で提案いただいた施設が、例えばスペースはあるが防音機能がないとか、ダンスをすると床が響いて階下に影響が出るとか、なかなか我々が想定している練習室に向いた施設の提供、提案がなく、なかなか需要と供給がうまくいかないところが現実的にあり、抜本的に今こうするとの回答をできないのが正直なところ。ただこういう状況を踏まえ、公的な施設、民間の施設も含め、文化団体の皆さんから、こういうところがあるがこういう理由で使えないとか、こういうところを使いたいが市役所から何か言ってもらえないかとか、具体的に例えばこの学校の音楽室が使いやすいとか、そういう意見をもらえれば、それを具現化するために我々もさらに検討を深めていきたいと考えている。例えば、会長には少し相談したが、長崎大学にも防音機能を備えた創楽堂という素敵な施設があるので、そういうところも練習室として活用させてもらえないかとか、そういう具体的な相談ができると思っているので、皆さんのお意見をもらえればと思っている。

【会長】

長崎大学の創楽堂は、キャパがマックス90ぐらいあり、一応有料で貸し出していて、大学の授業や試験がない限りは使ってもらわなければというのはあるので、知ってる方は押さえている。年間何十回か借りると割引というのを前学長がシステムを作り出しているので、長崎市がヘビーユーザーになれば半額になる。工夫すればいろいろあるかもしれない。

【委員】

スタジアムシティの1室を市が払い借り切る。スタジアムシティも平日やはり人の入りが悪い。試合がある時には多いだろうが、それ以外はない。閑散として、フロアが空いているようにしか見えないところを借り、団体に貸すとか、あそこは便が良いのでとてもスペース的には良いと思うので、ぱつと思いつくのはそこ。

【会長】

演劇の練習場は今足りているか。

【委員】

足りていない。ただ少人数の3人とか4人とする分に関しては私も稽古場を持っているし、他の稽古場もあるのでできるが、大人数でしようとするとできないし今回のミュージカルの時もとても大変だった。声を出すので、声を出すこと自体が周りの人にとっては騒音でしかない。心地良い音楽が隣から聞こえてくると良いが、声はどうしても周りに嫌われるので、演劇だと、公民館とかで探してみると声を出すのは貸せないということもある。

【委員】

私は大きな団体に属しているわけではないので、インスタ等見ていると、幼稚園の閉園後にピアノがあるお遊戯室や講堂を練習場所として借りていると見るが、幼稚園は男性のトイレが少なく使いづらいのではないかと思うこともある。いつも使われている小学校があるので連携できたら良いと思うのと、個人的には長崎大学の音楽堂の練習室は学生の頃お世話になり、お金を払ってでも使えたら良いと思ってはいる。

【会長】

1階に個室の個人練習できる一応防音がある部屋がある。今は学生のためだが、学生も減ってきて有料で使うと大学は喜ぶかもしれない。小学校の土日や放課後はどうなのか。グラウンドは教室を通らずに貸せるところにあるから開放しやすい。一方音楽室は建物の割とへんぴなところにある。そうすると、教室や職員室の前を通らないといけないので、夜や土日に貸し出しにくいことがあるみたい。学校の音楽室は良い。演劇の練習でもワーウー言っても大丈夫なので良い。

【委員】

諏訪小学校と桜町小学校はふれあい会館がありそこは貸し出しをしている。琴、尺八に関して言えば、今度松森天満宮で歌舞伎をするが、直会をする広い本殿と違う建物があり、そういうところでは、稽古も十分できるし、伊勢宮も別にそういう場所があり、畳の部屋になつていてピアノもあったと思う。そういうところを使っている。

【会長】

普通の人が使えるか。

【委員】

使える。

【委員】

練習室の場所に関しては、活水の音楽学部5号館は音出しができ、小部屋がいっぱいあるが、卒業生とか非常勤講師の先生とか、よく利用している人がいる。本当は施設は学生が使うのが本筋だが、空いているので、これらの施設をこれからどう活用していくか、音楽学部も学生募集停止になっているので、その辺は市民も課題なのだと今は思いながら聞いていた。

【会長】

今後いろいろ相談できる部分があると良い。

【委員】

音楽棟の小さな音楽室とか、教室とか、結構、外部の方からもたまに借りたいという話もあるが、全部教室としての扱い。教室は学生が使うものとして外部に貸すとはシステム 자체がそうなっていないが、何か機会があれば、創楽堂と同じような外部利用のシステムが構築できたら、それは良いと思う。

【会長】

中部講堂とか大きなホールも貸し出しできているので、同じとの理屈はあるような気がする。

【委員】

長崎県美術館のホールも使ってほしい。

【会長】

長崎県美術館のホールもピアノも入り音響も使い勝手も良いのでぜひ使ってとの話。

【委員】

練習場の情報も欲しいが、皆さんの仕事が終わり集まるのが夜7時半とか8時ぐらいで稽古をして9時には出てと言われるのがちょっと厳しいので、できればそこもちょっと配慮してもらい、時間的にも余裕ができるところを欲しいと思う。

【会長】

小ホールも24時まで使えるようにして、その管理にはバイトを雇いうまくしているところもある。

【委員】

例えまう閉めてしまったスナックはカラオケがあり音を出しているだろうから、夜遅くまで使えるかもしれない。今いろいろ出たから、どれぐらいの広さでどれぐらいの時間帯だったら使えるかを1回調べてみたら良いのではないか。

【会長】

少し具体的な話も出た。市の皆さんもアンケートや調査をすると言われたが、この段階で調査することはもう文化振興課が当然把握していることだと私が言ってしまった。しかし数値としてしっかり見える化する必要があると思うので、今言ってもらった発言をもう1回汲み取って少し考えてもらうのはどうか。

【事務局】

長崎大学の音楽室は初めて聞いた。今スナックとあり、カラオケボックスはたまに聞くことがあったが、いろいろなアイデアをもらったので、早急にまずどういうところだったら皆さんができるのか、理由もしっかり改めて聞いたうえで、調査をしたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【会長】

ぜひ練習場の問題は早く進めていかないと、せっかくピース文化祭で盛り上がっているので、間を空けると熱が冷めるとと思う。今だったらつなげられる。何らかの方針なり方向性が年度内にちょっと見えたなら嬉しいと思うので頑張って。

【事務局】

市民会館にも音楽室等音を出せる部屋がいくつかあるが、稼働率がすごく低く、あまり使われていない状況。なぜ使われていないのか我々もまだ把握ができておらず、もしこういうことで使い勝手が悪いなどあれば教えていただきたいが、いかがか。

【委員】

市民会館の2階の和室は尺八、琴で使っている。ただ、畳の部屋で、椅子もないで、その辺は使い勝手が悪い。ちょっと離れているので、音は出しても構わないところ。それからアマランスの和室も音出しできる。

【委員】

市民会館の音楽室は、声を出す表現のワークショップで借りたいと言ったときに、音楽用だからと言わされたことはあった。仕様の問題があるかもしれないで確認してもらえれば、もう少し枠を広げてもらえるとぜひ使いたい部屋。音楽室は1階にある。7階は体育室があり、体育室の横の部屋はちょっと狭い。体育室も同じように用途を結構絞られる。

【委員】

ダンスでは結構借りる。音をかけるが、横の音楽室で何かされているときには、今かけるとどうかとちょっと考えながらかけるが、一応防音になっているだろうが、向こうの音も聞こえるので、多分こちらの音も聞こえてやりにくいだろうと思いながら、よくかけているが、そういう状況でよく体育室を使う。結構空いていない。6階の軽スポーツ室も使うがちょっと狭い。スポーツ用なので、踊るには横は広いが、奥行がなく、結構使えないで、少人数でする練習は良いが、ちょっと人数が多くなるとやりにくいので、まだ7階の体育室の方がちょうど市民会館の舞台の使える範囲ぐらいになっているので、市民会館で何かするときには、ちょうど使いやすい感じになる。ただ天井がちょっと低いので、ものを使って上げると、どんとあたるので、そこもちょっと使いづらい。踊る分には全然大丈夫だが、結構ヒップホップのダンスで利用されていることが多い、土日にはまず空きがないので、予約ができる期間になったら、まず聞いて予約を入れないと、すぐ埋まってしまう。平日は空いているのではないかと思う。

【委員】

先程話があった諏訪小等にある学校地域交流センターはとても良い施設だと思うが、お金を取らないでするものには使えるが、例えば参加費を集めてするイベントには貸せないとなっている。営利のものではなくてもお金がかかるので、実費だけで1,000円の参加費も取るものには貸せないとなっているので、そこを見直しが少しできると良いと思う。

【事務局】

市民会館には1階の音楽室が190平米の広さ、7階の体育室の横にある室内楽室が60平米、2階に視聴覚室もあり150平米ぐらい。もしかしたらまだ皆さんが知らない施設はたくさんあるかもしれないその辺も我々で取りまとめて、見える化できるように工夫をしてみたいと思う。

【会長】

それと同時に使い勝手の良いように、変な縛りはなくすとかせめて椅子を用意するとか、防音は無理でも遮音性を高めるとか工夫をしながら。

【委員】

市民会館は夜9時が閉館なので、8時45分には帰りの音楽が鳴る。だから8時から始めたときは1時間も使えない感じでしないといけない。

【会長】

よくわかる。

【事務局】

練習室の問題は、私たち行政の公務員の目線で見ると、ここを改修したらいくらかかるのか、そんなにかかるなら費用対効果的にかなり厳しいと道はかなり限定されてしまうので、今皆さんからいろいろ話があったように、皆さんが使っているところの見える化とか、ここを使えたら良いが障壁があるようなところを、私たちが一緒にその障壁を取り除くとか、そういう形の取り組みが早くて現実的な、もちろんしっかりしたものも必要というところは承知しているが、まずこの状況を開拓するためにはそういった取り組みが有効ではないかと考えているので今後とも皆さんのご意見をいろいろいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

【委員】

皆さん報道ベースで一応知ってはいるが、新たな文化施設について議会であった話があると思うので、審議会に、一言報告してほしい。

【事務局】

すでにご承知おきの方もいるかと思うが、今の進捗としては、9月議会で、従来手法という役所が作る方式か、それとも最近よくされるPFI等民間の力を借りた形での整備手法にするのかの可能性を、コンサルティング会社にお願いし、いろいろ比較検討する予算を計上していた。そちらは、12月にコンサルティング会社との契約が、無事決まったところ。そこを受け、今後できれば年度内ぐらいに皆様の一番の関心のところの新たな文化施設の規模や機能等の内容をしっかりと固めていき、もちろん市役所本館跡地は新文化施設だけではなく、他にこの周辺のにぎわいを創出する施設も欲しいと我々は考えているので、そちらもあわせての検討は、令和8年度いっぱいぐらいで大体の姿が見えるような形で仕上げていくよう進めているので、今後も進捗があったら、もちろん先程申し上げた新たな文化施設の規模や機能という部分については、皆さんにもお示しをし、ご意見をいただきながら作っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

【会長】

規模といつまでにというのは今後話題になってくる。その辺も含めてよろしくお願ひしたい。